

主体的・対話的で深い学び

1

これから、「主体的・対話的で深い学び」についての研修を始めます。
この研修は、単元の指導計画において、子供が単元の目標の達成に向け、各授業においてどのように学ぶかを考え、単元をデザインすることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点について理解することをねらいとしています。

前半に説明、後半に演習を行います。

(時間の目安：説明10分、演習20分)

1 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点について

授業づくりの基本「5つの視点」

[視点1] 育成を目指す資質・能力の明確化

[視点2] 内容や時間のまとまりを見通した単元（題材）のデザイン

[視点3] 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える手立て

[視点4] 全ての児童が安心して学ぶことができる環境づくり

[視点5] 特別な配慮を必要とする児童への指導内容や指導方法の工夫

- ・ **主体的**に学習に取り組めるよう、**自身の学びや変容を自覚できる場面**を設定する。
- ・ **対話**によって**自分の考えなどを広げたり深めたりする場面**を設定する。
- ・ **学びの深まり**を作り出すために**児童が考える場面と教師が教える場面**を組み立てる。

「令和5年度小学校教育課程改善の手引」北海道教育委員会（令和5年3月）²

主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点について説明します。

令和5年度小学校教育課程改善の手引では、授業づくりの基本として5つの視点が示されています。

この中の[視点2]では、「主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。」、「対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。」、「学びの深まりを作り出すために児童が考える場面と教員が教える場面を組み立てる。」の、授業改善の視点について解説しています。

この後のスライドで、「主体的な学び」や「対話的な学び」について、学習者の視点（姿）と、それを引き出すための授業者の視点について確認します。

2 主体的な学び

○ 主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚する

<学習者の視点>

- ・ 学ぶことに興味や関心を持つ
- ・ 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける
- ・ 見通しを持つ
- ・ 粘り強く取り組む
- ・ 自己の学習活動を振り返って次につなげる

<授業者の視点>

- ・ 既習事項を振り返る
- ・ 具体物を提示して引き付ける
- ・ 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する
- ・ 子供が自らめあてをつかむようにする
- ・ 学習課題を解決する方向性について見通しを持てるようにする
- ・ 子供が自分の考えを持つようにする
- ・ 子供の思考を見守る
- ・ 子供の考えを生かしてまとめる
- ・ 思考を交流する場面を作る
- ・ 交流を通じて思考を広げる
- ・ 協働して問題解決する
- ・ その日の学びを振り返る
- ・ 新たな学びに目を向けるようにする

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」国立教育政策研究所（令和2年6月）³

主体的・対話的で深い学びとは、学習指導要領に示された内容を、子供が「どのように学ぶか」について、具体的な姿として示したものです。

子供の具体的な学びの姿を考えながら、単元、題材のデザインを考えることが大切です。

主体的に学習に取り組めるよう、学習者、つまり子供側からの視点と教員、授業者側からの視点で考えることで、主体的・対話的で深い学びを実現するために教員が何に取り組めば良いかが分かりやすくなります。

学習者の視点とは子供の姿であり、例えば、スライドの左上にあるように、子供に学ぶことへの興味や関心を持たせようとした場合、それらの姿を引き出すことができるよう、右側に、既習事項を振り返る、具体物を提示して引き付けるなど、教員が実際の取組を具体的に考えるための視点を示しています。

3 対話的な学び

○ 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする

<学習者の視点>

- ・ 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・ 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・ 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・ 先哲の考え方を手掛かりに考える

<授業者の視点>

- ・ 思考を交流する場面を作る
- ・ 交流を通じて思考を広げる
- ・ 協働して問題解決する
- ・ 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」国立教育政策研究所（令和2年6月）

4

スライドは、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする視点について示しています。

具体的な子供の姿に結び付くよう、教員は授業者の視点からどのような手立てが考えられるか、具体的に検討していくことが大切です。

例えば、授業の目標の下、意図を持って話合いの場を設定するとともに、どのように話合いを進めるかなど、子供に明確に伝えることが考えられます。

言葉を発することができなかつたり、コミュニケーションが苦手だったりする子供には、対話的な学びは難しいと言われることがありますが、皆さんはどのように考えますか？

対話的な学びは、子供同士の直接のやりとりのみではなく、他の友達が活動している様子を見て、自分はどのように取り組もうか考えたり、教員の説明や視覚的な提示を見たり聞いたりして、自分と友達の違いに気付き、その後の活動に生かしたりすることなどの学びも対話的な学びと考えられます。

教員が発問や提示などを工夫することで、子供の対話的な学びを引き出し、自己の考えを広げたり深めたりできるようにすることが大切です。

4 深い学び

- 学びの深まりを作り出すために、児童が考える場面と教師が教える場面を設定する

<学習者の視点>

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる
- ・知識を相互に関連付けてより深く理解する
- ・情報を精査して考えを形成する
- ・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

<授業者の視点>

- ・資質・能力を焦点化する（付けたい力を明確にする）
- ・単元や各授業の目標を把握する
- ・ねらいを達成した子供の姿を具体化する
- ・教材の価値を把握する
- ・単元及び各時間の計画を立てる
- ・目標の達成状況を評価する

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」国立教育政策研究所（令和2年6月）

5

スライドは、学びの深まりを作り出すための具体的な視点について記載しています。

実際の指導場面における子供の学習の状況に応じ、指導計画の見直しを図る柔軟な姿勢を持つことが大切です。

これらの視点は、本プログラムの単元の目標や評価規準の例、単元の指導計画の例などでも、説明されています。

次のスライドから、視点の活用例として、目標の設定、単元の評価規準、単元の指導計画、一単位時間の中での考え方について説明します。

中学部 保健体育科「ダンス」の例 ～単元の目標と評価規準～

単元の目標		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・ダンスの行い方が分かり、ステップや振り付けを身に付ける。	・ステップや振り付けの得意・不得意に気付き、ダンスの内容を考えたり工夫したりしたことを友達に伝える。	・ダンスに進んで取り組み、友達の発表後に、次のダンスにつながる感想を伝える。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ダンスの行い方が分かっている。 ・ステップや振り付けを身に付けている。	・ステップや振り付けの得意・不得意に気付き、ダンスの内容を考えたり工夫したりしている。 ・考えたり、工夫したりしたことを友達に伝えている。	・ダンスに進んで取り組み、友達の発表後に、次のダンスにつながる感想を伝えようとしている。

➡ 単元を終えた時に、生徒はどのような力を身に付けたか？

6

ここからは、事例を基に説明します。

これは、プログラムⅡ-1でも示した、知的障がい特別支援学校中学部の保健体育科の「ダンス」の単元の目標と評価規準の作成例です。

中学部の保健体育科のダンス領域の内容と学習評価の参考資料を基に作成したものです。

目標と評価規準を3つの観点で位置付けています。

このように、目標で身に付けたい資質・能力を明確にし、評価規準を明確にすることは、学びの深まりを作り出すためのポイントとなります。

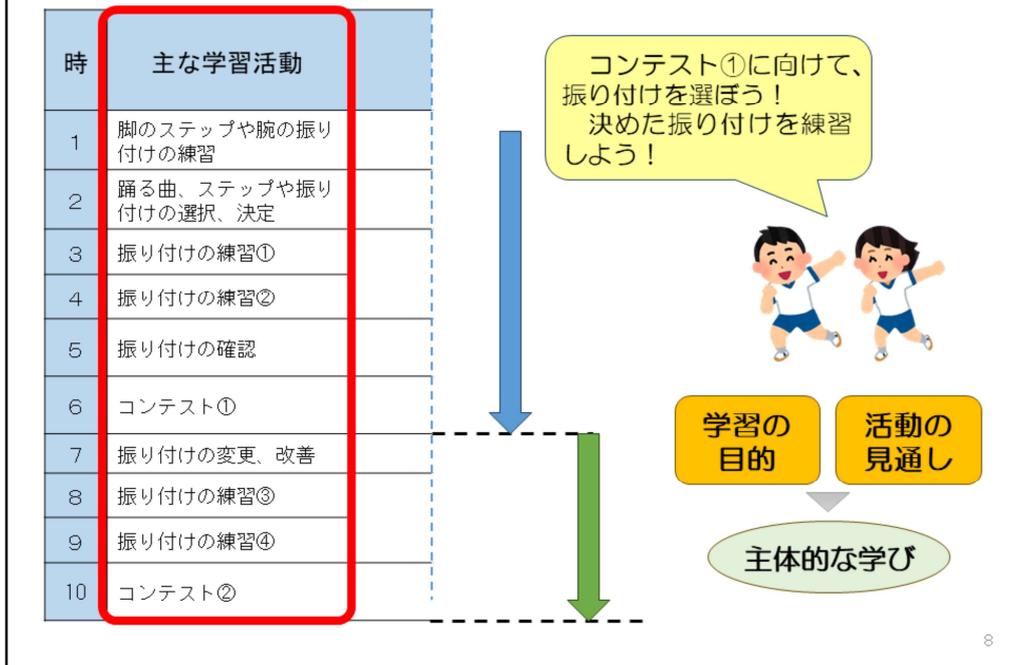
中学部 保健体育科 「ダンス」の単元の指導計画の例

時	主な学習活動	目 標	評価の観点		
			知	思	主
1	脚のステップや腕の振り付けの練習	脚のステップや腕の振り付けが分かり、踊ることができる。	○		
2	踊る曲、ステップや振り付けの選択、決定	踊る振り付けの選択や決定で、考えを持ち、意見を言う。			
3	振り付けの練習①	振り付けの出来映えや変更点などについて考えを持ち、意見を言う。		○	
4	振り付けの練習②				
5	振り付けの確認	脚のステップや腕の振り付けを決めたとおりに踊ることができる。	○		
6	コンテスト①	発表を見て、感想を言う。			○
7	振り付けの変更、改善	コンテストを振り返り、振り付けの変更、改善に考えを持ち、意見を言う。		○	
8	振り付けの練習③	脚のステップや腕の振り付けを決めたとおりに踊ることができる。	○		
9	振り付けの練習④		○		
10	コンテスト②	発表を見て、感想を言う。			○

7

これは、プログラムⅡ-I などでも示している単元の指導計画の例です。

中学部 保健体育科 「ダンス」の単元の指導計画の例



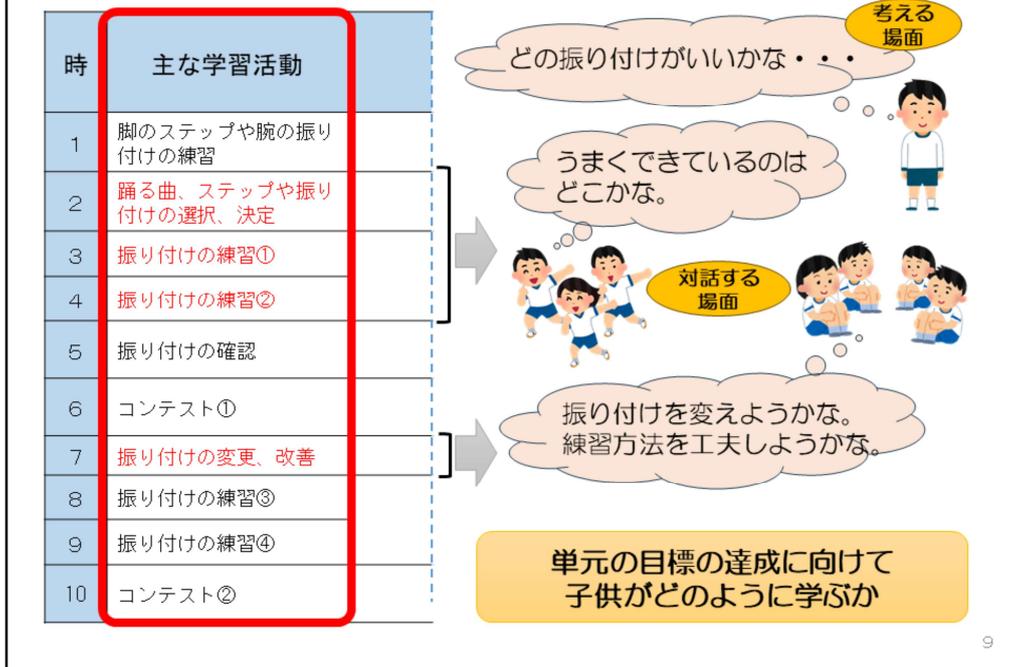
赤枠で示した計画を例にすると、まず、基本となる知識・技能を習得し、振り付けの選択や練習を経て一度コンテスト①で発表しています。

そして、コンテスト①やそれまでの練習を他者との関わりなどから振り返り、変更や改善点を考え、振り付けができるように練習し、コンテスト②でそれらを発揮するといったように主な学習活動が構成されています。

単元を通して目指すことは何なのか、生徒が学習活動に対して目的や見通しを持てるようにすることは、主体的な学習につながります。

また、振り返りを行う場面を意図的に設定することは、自身の学びや変容を自覚することにつながります。

中学部 保健体育科 「ダンス」の単元の指導計画の例



赤い文字で示した学習は、単元の目標を踏まえ、「得意、又は不得意なステップや振り付けに気付くこと」や、「ダンスの内容を考えたり工夫したりしたことを友達に伝える」など、生徒が考えを持ったり、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすることを意図して設定しています。

このように単元の目標の達成に向けて、子供が理解したり身に付けたりすることや、対話を通して考えたり伝えたりすることなど、どのように学んでいってほしいかを、単元を見通して検討することが大切であり、そのための視点が、「主体的・対話的で深い学び」です。

「主体的・対話的で深い学び」は、子供に育成を目指す資質・能力を育むための授業改善の視点であり、授業の方法や技術の改善のみを意図するものではありません。

また、「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありません。

単元の目標の達成に向けて、単元を見通しながら、どの時間にどの目標に向かって（どの資質・能力の育成に向けて）、どのように学ぶかを考えることが大切です。

演習

単元の指導計画を基に、「主体的な学び」や「対話的な学び」、「深い学び」の視点から考えられる工夫を考えてみましょう！

- ・単元を見通して、主体的に学んでほしいと考える授業や子供の姿にはどのようなものがあるか。
- ・そのために、単元や授業において、どのような工夫が考えられるか。
- ・主体的な学びや対話的な学びの視点から考えた工夫は、単元の目標（又は授業の目標）の達成に向けたものとなっているか。

10

それでは、ここから演習を行います。

皆さんが担当している単元の指導計画を準備してください。

この演習では、子供が単元の目標の達成に向け、どのように学ぶかを考え、単元を構成し、学びの質を高めることができるよう、授業改善の視点について理解を深めることをねらいとしています。

自身が担当する単元の指導計画について、単元の目標や指導の意図を確認し、「主体的な学び」や「対話的な学び」の姿を引き出し、目標の達成に迫るための工夫を考えましょう。

<演習の進め方の例>

- ① 個人思考（10分）
- ② 協議（10分）

☆ 指導教諭は、受講者に、個人思考の観点をスライドに示した内容を参考に提示するとともに、協議において、それらの観点を受講者に問い掛けたり、一緒に考えたりするなどして、受講者が対話しながら授業改善の視点に対する理解を深め、単元の指導計画の作成や授業づくりに生かすことができるようにする。

〔個人思考及び協議の観定の例〕

- ・単元を見通して、主体的に学んでほしいと考える授業や子供の姿にはどのようなものがあるか。
- ・そのために、単元や授業において、どのような工夫が考えられるか。
- ・主体的な学びや対話的な学びの視点から考えた工夫は、単元の目標（又は授業の目標）の達成に向けたものとなっているか。

（時間経過後）

これで、「主体的・対話的で深い学び」の研修を終わります。